

政策 21 健康な暮らしの充実

施策 01 地域医療体制・制度の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民	地域医療体制に不安なく健やかに暮らしています。

施策の成果状況と評価

指標	市内の医療体制に満足している市民割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【健康づくり課】	%	76.0	-	80.1	➔
評価	(状況) 市内の医療体制に満足している市民割合は80.1%で、前回の実績値よりも4.1ポイント向上しています。一方で、内容を見ると、30代と40代の25%以上が「やや不満」や「不満」と回答しており、他の年代に比べ満足度が低い結果となっています。 (原因) 子育て世代で満足度が低いことについては、小児科の入院施設のほか産科婦人科の数が少ないことなどが影響しているものと考えられます。						目標 達成度 ---

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 充実した地域医療の確保

基本事項 02 子ども医療体制の強化

基本事項 03 国民健康保険制度の適正な運営

基本事項01 充実した地域医療の確保

指標	診療所・医院からの公立岩瀬病院への患者紹介率 【健康づくり課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	40.9	39.4	41.6	→	
評価	<p>(状況) 診療所・医院からの公立岩瀬病院への患者紹介率は41.6%で、平成24年度基準値の35.1%と比べ6.5ポイント伸び、前年度と比べても2.2ポイント伸びています。</p> <p>(原因) 公立岩瀬病院内の地域医療連携室が機能しているとともに、オープンシステムによる診療所・医院との病診連携が進んでいることなどが考えられます。また、深刻な医師不足の中でも、公立岩瀬病院の医師数が増加していることから、紹介率向上の余地があるものと推察されます。</p>						 (向上)
		目 標 達 成 度	---				

基本事項01 充実した地域医療の確保

指標	公立岩瀬病院からの診療所・医院への患者紹介率 【健康づくり課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	48.2	47.2	47.8	→	
評価	<p>(状況) 公立岩瀬病院からの診療所・医院への患者紹介率は47.8%で、平成24年度基準値の32.3%と比べ15.5ポイント伸び、前年度と比べても0.6ポイント伸びています。</p> <p>(原因) 公立岩瀬病院内の地域医療連携室が機能しているとともに、オープンシステムによる診療所・医院との病診連携が進んでいることなどが考えられます。また、市が「かかりつけ医」を持つことの重要性や病院と診療所・医院との役割分担について周知を行い、市民の理解を得られていることも要因の一つと考えられます。</p>						 (向上)
		目 標 達 成 度	---				

基本事項01 充実した地域医療の確保

指標	市内出動救急車による市内病院等の搬送率 【健康づくり課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	50.3	50.9	49.9	→	
評価	<p>(状況) 市内出動救急車による市内病院等の搬送率は49.9%で、平成24年度基準値の51.3%と比べ1.4ポイント、前年度と比べ1.0ポイント下がっていますが、経年変化の中ではほぼ横ばいです。管内以外では、郡山地域への搬送が37.9%、その他が12.2%となっています。</p> <p>(原因) 救急搬送の件数(平成28年度は4,885件)に対して、医師不足などにより対応できる管内の病院が少ないことが原因と思われます。また、疾患別では特に「脳疾患」における郡山地域への搬送率が64.4%と高いことから、診療科目の偏りも影響していると考えられます。</p>						 (横ばい)
		目 標 達 成 度	---				

基本事項01 充実した地域医療の確保

指標	かかりつけ医がいる市民の割合 【健康づくり課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	78.1	-	80.6	→	
評価	<p>(状況) かかりつけ医がいる市民割合は80.6%で、平成26年度の78.1%に対し、2.5ポイント増加しています。</p> <p>年齢別では、70歳以上になると90%以上の方がかかりつけ医がいると回答しているのに対し、30代では66.0%に留まっています。</p> <p>(原因) ホームページによる周知のほか、広報10月号などでも意識の啓発を行っており、割合が増加した要因の一つと考えられます。</p> <p>若い世代や働き盛りの年齢では、受診機会そのものが少ないため、かかりつけ医がいないと回答した割合が高かったものと考えられます。</p>						 (横ばい)
		目 標 達 成 度	---				

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 充実した地域医療の確保

基本事項 02 子ども医療体制の強化

基本事項 03 国民健康保険制度の適正な運営

基本事項02 子ども医療体制の強化

指標	産科・小児科及び周産期医療に対応できる病院数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【健康づくり課】	施設	2	2	2	
評価	<p>(状況)産科・小児科及び周産期医療に対応できる病院数は2施設で、国立病院機構福島病院と公立岩瀬病院により体制を維持しています。</p> <p>(原因)福島県立医科大学に寄附講座「周産期・小児地域医療支援講座」を設置し、地域密着型後期研修プログラムの開発・研究を行っているほか、当該2病院で診療支援を受けました。また、須賀川市地域医療を守る市民基金に対する市民からの寄附金2,170万円を、公立岩瀬病院の産科婦人科診療棟整備費の一部支援を目的に、公立岩瀬病院企業団へ補助金として交付しました。</p>	<p>(施設)</p>					<p>(横ばい)</p> <p>目標達成</p> <p>---</p>

基本事項03 国民健康保険制度の適正な運営

指標	被保険者一人あたりの年間医療費	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【保険年金課】	円	308,892	334,716	328,367	➔
評価	<p>(状況)被保険者一人あたりの年間医療費は328,367円で、平成24年度基準値の312,268円と比べ約16,000円増えていますが、前年度と比べ約6,000円減少しています。また、入院・外来等の受診件数は、前年度と比べ年間約12,000件、月平均で約1,000件減少しています。</p> <p>(原因)国保被保険者数の減少とともに、ジェネリック医薬品の差額通知やデータヘルス計画に基づく各種保健事業等の効果により、療養給付費の減少に繋がったものと考えられます。また、高額医薬品の薬価改定(減額)の影響も考えられます。</p>	<p>(円)</p>					<p>(横ばい)</p> <p>目標達成</p> <p>---</p>

基本事項03 国民健康保険制度の適正な運営

指標	国民健康保険税収納率	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【保険年金課】	%	91.42	92.25	93.88	➔
評価	<p>(状況)国民健康保険税の収納率は、前年度と比べ1.63ポイント増加し93.88%となっています。平成24年度基準値の92.53%と比べても1.35ポイント増加しています。</p> <p>(原因)納付者に対して、コンビニ収納やクレジット収納など、納付しやすい環境を提供してきたことが収納率の増加に表れたと考えられます。</p>	<p>(%)</p>					<p>(横ばい)</p> <p>目標達成</p> <p>---</p>

政策 21 健康な暮らしの充実

施策 02 健康づくりの推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民	各年代に応じた心身の健康保持・増進が図られて、健やかに暮らしています。

施策の成果状況と評価

指標	健康だと感じている市民の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【健康づくり課】	%	82.5	-	81.5	➔
評価	(状況)「健康だと思う」「どちらかといえば健康だと思う」と回答した市民の割合は81.5%で、平成26年版厚生労働白書によると「非常に健康だと思う」「健康な方だと思う」と回答した割合は73.7%となり、それと比べると市は7.8ポイント高くなっています。 (原因)住民が健診等で自分の健康状態を把握し、住民自ら生活習慣の改善や健康意識を高め、実行することができるような事業や訪問活動を実施しているためと考えます。	(%) 					目標達成度

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 地域保健活動の充実

基本事項 02 生涯を通じた健康づくりの推進

基本事項 03 母子保健の充実

基本事項01 地域保健活動の充実

指標	生活習慣病死亡率 【健康づくり課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		10万人対	592.7	631.4	-	→	
評価	<p>(状況) 平成27年生活習慣病死亡率は631.4と、基準値の598.1より高い結果となっています。なお、平成27年の国の生活習慣病死亡率は557.4、県は699.0となり、市は国よりも高く、県よりは低くなっています。</p> <p>(原因) 特定保健指導事業の参加人数が減少傾向となっているため、事業実施回数を前年度の50回から平成28年度は64回と増やし、個別を中心とした個人の指導を実施しています。</p>	<p>(10万人対)</p>					<p>(横ばい)</p> <p>目標達成</p> <p>---</p>

基本事項01 地域保健活動の充実

指標	健康づくりのための生活習慣実践項目数 【健康づくり課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		項目	4.94	-	-	→	
評価	<p>(状況) アンケート内容が変更となり、項目数での比較ができませんが、参考として平成26年度と28年度の共通の個別項目実施率の比較でみると、「朝食を毎日食べる」16.9%、「ほぼ毎日適度な運動」6.8%、「喫煙していない」5.3%とそれぞれ向上しており、実施項目数についても向上していると推察されます。</p> <p>(原因) 保健師・管理栄養士等の健康教育・健康相談・訪問指導等の実施人数が増加していること、また健康づくり推進員や食生活改善推進員の活動への市民参加人数も増加しているなど、市民から市民への健康への取組の広がりが良い効果となっていると考えられます。</p>	<p>(項目)</p>					<p>---</p> <p>目標達成</p> <p>---</p>

基本事項01 地域保健活動の充実

指標	健康のために「特に何もしていない」人の割合 【健康づくり課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	6.4	-	1.8	→	
評価	<p>(状況) アンケート内容が変更(「特に何もしていない」が削除)となり比較できませんが、参考として平成28年度アンケートの「健康づくり生活習慣項目」について、4項目全てを実践していない市民の割合が1.8%と低い数値であったことから、前回の実績値に比べ、健康のため「特に何もしていない人」の割合は低下していると推察されます。</p> <p>(原因) 基本事項「健康づくりのための生活習慣実践項目数」の評価と同様と考えています。</p>	<p>(%)</p>					<p>---</p> <p>目標達成</p> <p>---</p>

基本事項02 生涯を通じた健康づくりの推進

指標	特定健康診査受診者におけるメタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の者の割合 【健康づくり課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	30.8	30.7	31.5	→	
評価	<p>(状況) 特定健康診査受診者におけるメタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の者の割合は31.5%です。平成28年度でみると、男性は47.5%、女性は19.0%がメタボリックシンドローム該当者及び予備軍であり、男女で大きな差があります。また、女性は年齢とともに少しずつ割合が高くなりますが、男性は55歳以上で急に割合が高くなっています。</p> <p>(原因) 男性の40代の受診率が20%以下なのに対し、女性は受診率が20%以上になっており、健康意識の違いと若い年代からの受診による生活習慣の改善が影響しているものと考えられます。</p>	<p>(%)</p>					<p>(横ばい)</p> <p>目標達成</p> <p>---</p>

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 地域保健活動の充実

基本事項 02 生涯を通じた健康づくりの推進

基本事項 03 母子保健の充実

基本事項02 生涯を通じた健康づくりの推進

指標	この1年間に健康診断を受けている市民の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【健康づくり課】	%	71.3	---	72.8	→
評価	<p>(状況) この1年間に健康診断を受けている市民の割合は72.8%です。平成26年度と比べると、ほぼ横ばいで推移しています。男女別で見ると、男性は75.0%、女性は70.4%で男性の方が女性より健康診断を受けています。また、年齢別では50～59歳が78.6%と最も高く、次いで40～49歳が75.5%、60～64歳が74.6%、75歳以上が74.1%の順となっています。</p> <p>(原因) 健康意識の高まりや受診勧奨により、各種検診の受診者数は増加傾向にあります。特に特定健康診査の対象となる年齢で高くなっています。</p>						☁️ (横ばい) 目標達成度 ---

基本事項02 生涯を通じた健康づくりの推進

指標	この2年間でがん検診を受けている市民の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【健康づくり課】	%	61.8	---	62.2	→
評価	<p>(状況) この2年間で何らかのがん検診を受けていると回答した市民の割合は62.2%です。平成26年度の実績値と比べても、ほぼ横ばいで推移しています。なお、最も受けているがん検診は胃がん検診で33.1%、次いで肺がん検診26.7%、大腸がん検診26.4%、子宮がん検診26.0%、乳がん検診23.3%の順となっています。</p> <p>(原因) 健康意識の高まりにより、各種検診の受診者数は増加傾向にあります。なお、胃がん・肺がんは、集団会場でも検査が可能であることもあって、受診割合が高いものと考えられます。</p>						☁️ (横ばい) 目標達成度 ---

基本事項03 母子保健の充実

指標	ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【健康づくり課】	%		88.1	90.1	→
評価	<p>基準値は、市健康増進計画(平成22年度策定)現状値です。</p> <p>(状況) 3・4か月、1歳6か月、3歳児健康診査における健診票への記入結果から「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある」と答えた母親の割合は、昨年度より2ポイント増加し90.1%となっています。市健康増進計画(平成23年度～平成34年度)の目標値である80.0%より高い結果となっています。</p> <p>(原因) 妊娠・出産・子育てにおける不安を解消するために妊娠期から家庭訪問(延べ1,641件)、健康相談(延べ1,958件)、健康教育(延べ24回)を実施していることから、育児不安が軽減され、安心して子育てができる環境となっていることが要因と考えられます。</p>						☀️ (向上) 目標達成度 ---

基本事項03 母子保健の充実

指標	1歳6か月までに麻しん風しん予防接種を終了している者の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【健康づくり課】	%		84.9	83.7	→
評価	<p>(状況) 1歳6か月児健康診査時における麻しん風しん予防接種率は83.7%で、前年度からほぼ横ばいの推移となっています。なお、接種対象年齢である2歳までには勧奨等を行い、ほぼ100%の実施率となっています。</p> <p>(原因) 出生児訪問や麻しん風しん予防接種対象年齢になる前の9・10か月児健康診査において接種勧奨をしています。9・10か月児健康診査の受診率は96.5%で、ほぼすべての保護者に接種勧奨をしていることが接種率維持につながっていると考えられます。</p>						☁️ (横ばい) 目標達成度 ---

政策 22 市民福祉の向上

施策 01 地域福祉の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民	地域力を生かした支えあいのまちづくりができています。

施策の成果状況と評価

指標	地域力を生かした支えあいのまちづくりが出来ていると思う民生委員・児童委員及び保護司の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【社会福祉課】	%		-	57.4	→
評価	(状況) 地域力を生かした支えあいのまちづくりが出来ていると思う民生委員・児童委員及び保護司の割合は57.4%となっています。初めて取得した数値であり、経年比較はできません。男女別で比較すると、男性が60.2%、女性が54.1%となっており、地区別では、長沼地区が86.7%と高く、西袋地区が38.1%と低くなっています。 (原因) 地域によっては人と人とのつながりが弱くなっており、西袋地区は、新興住宅や単身世帯が多いこともあり、人間関係が希薄化していることが要因と思われます。						---
							目標達成度

指標	地域で支え合う仕組みづくりができていると思う市民の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【社会福祉課】	%	55.0	-	52.1	→
評価	(状況) 地域で支え合う仕組みづくりができている、または、どちらかといえはできていると思う市民の割合は52.1%で、前回の実績値と比べ2.9ポイント減少しました。年齢別では、80歳以上が64.1%と高く、20代が全体割合に比べ8%ほど低くなっています。地区別では、岩瀬地区が65.9%と高く、西袋地区が47.2%と低くなっています。 (原因) 少子高齢化や核家族化の進行により、地域住民とのつながりが希薄となっていることが要因と思われます。						(横ばい)
							目標達成度

指標	良好な近所づきあいができている市民割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【社会福祉課】	%	46.3	-	42.5	→
評価	(状況) 良好な近所づきあいができている市民割合は42.5%で、前回の実績値と比べ3.8ポイント低下しています。年齢別では、年齢が若いほど低くなっています。地区別では、大東地区が64.6%と高く、稲田地区が31.9%と低くなっています。 (原因) 若年層が特に低い要因としては、インターネットやSNSの普及により、人とのコミュニケーション方法が変化していることなどが考えられます。						(横ばい)
							目標達成度

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 誰もが安心して暮らせる環境の整備

基本事項 02 福祉ネットワークの充実

基本事項 03 地域福祉活動への住民参加の推進

基本事項01 誰もが安心して暮らせる環境の整備

指標	地域において高齢者等に対する見守りがなされていると思う民生・児童委員の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【社会福祉課】	%		-	53.4	→	
評価	<p>(状況) 地域において高齢者や障がい者、母子世帯等に対する見守りがなされていると思う民生・児童委員の割合は53.4%です。初めて取得した数値であり、経年比較はできません。男女別で比較すると、男性が54.3%、女性が52.4%となっており、地区別では、浜田地区が80%と高く、西袋地区が29.4%と低くなっています。</p> <p>(原因) 西袋地区は、新興住宅や単身世帯等が多いこともあり、人間関係が希薄化していることが要因と思われます。</p>						目標達成度
		---	---				

基本事項01 誰もが安心して暮らせる環境の整備

指標	須賀川市ユニバーサルデザイン導入行動計画に掲げた事業の達成件数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【社会福祉課】	件	22	25	33	→	
評価	<p>(状況) 市のユニバーサルデザイン導入行動計画に掲げた事業の達成件数は33件で、前年度に比べ8件の増加となっています。平成28年度は、導入計画件数69件のうち、行政施設の整備14件、道路整備6件、憩いの空間整備(公園)1件、情報伝達整備(広報、案内表示等)12件が達成、または一部達成されました。</p> <p>(原因) 公民館の図書貸出しについて、分類方法や貸出し方法を改善した他、新庁舎建設に伴い、トイレ、階段手摺、エレベーターやスロープなどが整備されたため、達成件数が増えました。</p>						目標達成度
		(向上)	---				

基本事項01 誰もが安心して暮らせる環境の整備

指標	社協や住民同士で展開している地域福祉サービスのメニュー数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【社会福祉課】	メニュー	8	8	8	→	
評価	<p>(状況) 社協や住民同士で展開している地域福祉サービスのメニュー数は8です。前年度と同数で新規のメニューはありません。8メニューの内では、生活福祉資金貸付8件、生活介護資金貸付5件、法外介護による生活困窮世帯の救済20件、福祉的就労体験1件、生活支援相談員による相談件数2,382件、日常生活自立支援延べ289件、心配ごと相談所の運営、共同募金及び歳末たすけあい運動募金です。なお、生活支援相談員への相談件数は2,356件減っています。</p> <p>(原因) 相談件数減の主な要因としては、応急仮設住宅の供与期間終了に伴い、100人程度が支援終了となったためと思われます。</p>						目標達成度
		(横ばい)	---				

基本事項02 福祉ネットワークの充実

指標	関係機関のネットワークが構築されていると思う民生・児童委員の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
	【社会福祉課】	%		-	64.6	→	
評価	<p>(状況) 社会福祉協議会や行政等関係機関が連携出来る、ネットワークが作られていると思う民生・児童委員の割合は64.6%となっています。初めて取得した数値であり、経年比較はできません。男女別で比較すると、男性が67.1%、女性が61.9%となっており、地区別では、浜田地区が100%と高く、稲田地区が42.9%と低くなっています。</p> <p>(原因) 福祉サービスに対するニーズが多様化する中で、今後更に関係機関との連携強化が必要であると思われます。</p>						目標達成度
		---	---				

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 誰もが安心して暮らせる環境の整備

基本事項 02 福祉ネットワークの充実

基本事項 03 地域福祉活動への住民参加の推進

基本事項03 地域福祉活動への住民参加の推進

指標	福祉ボランティア登録者数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
	評価	<p>【社会福祉課】</p> <p>(状況) 福祉ボランティア登録者数は3,242人で、前年度と比べて182人の増加となっています。 (原因) 東日本大震災以降、住民がボランティアに寄せる期待は高まっており、ボランティア活動に参加する住民の意識の高揚が図られていると思われます。</p>	人	2,596	3,060	3,242	→

政策 22 市民福祉の向上

施策 02 高齢者福祉の推進

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
65歳以上の高齢者	健康を保ちながら生活でき、介護状態になっても、地域の中でともに支え合いながら自分の健康状態にあわせた生活を送ることができ ます。

施策の成果状況と評価

指標	健康で元気な高齢者の割合 (自立高齢者割合) 【長寿福祉課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	81.2	80.9	80.3	→	☂ (低下)
評価	(状況)健康で元気な高齢者の割合(自立高齢者割合)は80.3% で、平成24年度基準値の81.7%と比べ1.4ポイント低下、前年度と比 べ0.6ポイント低下しています。 (原因)要介護認定者の前年度比の伸び率(3.6%)が65歳以上の高齢 者の伸び率(2.8%)を越えて増加(要介護認定者数が前年度比136人 増加)したためです。						目標 達成度 ■ ■ ■ (低)

指標	地域で支えあう仕組みづくりができていると思う高齢者の割合 【長寿福祉課】	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		%	60.0	-	54.2	→	☂ (低下)
評価	(状況)アンケートで「地域で支えあう仕組みづくりができている」、 「どちらかといえばできている」と回答した高齢者(65歳以上) の割合は54.2%で、前回調査と比べ5.8ポイント減少しています。 年齢別では、65歳～69歳では44.5%と低く、70歳～74歳は56.7% 、75歳以上は61.1%と高齢になる程割合が高くなっています。 (原因)65歳を超えてもさらに働き続ける高齢者が増えているな ど、高齢者の価値観や地域との関係性が変化してきていることが原 因だと思われます。						目標 達成度 ---

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 高齢者の生きがいがづくりの推進

基本事項 02 介護保険制度の適正な運営と介護予防の推進

基本事項 03 地域包括ケア体制の推進

基本事項01 高齢者の生きがいがづくりの推進

指標	生きがいを有して生活している高齢者の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【長寿福祉課】	%	84.1	-	81.8	→
評価	<p>(状況) アンケートで「生きがいを有して生活している」と回答した高齢者の割合は81.8%で、前回の調査と比べ2.3ポイント減少していますが誤差の範囲内とされます。</p> <p>(原因) 回答のあった高齢者の中から「どのようなことで生きがいを感じるか」を複数回答で選んでもらったところ、最も多かった回答は「趣味・娯楽・生涯学習」の157件で、次いで「運動・スポーツ」と「孫の世話等」の106件です。少なかった回答は、「老人クラブ活動」の27件、「地域活動」の53件となっています。男女別でも同様の傾向です。高齢者の生きがいを感じる活動は、趣味・娯楽活動を中心に多様化しているためと考えられます。</p>						(横ばい) 目標達成度 ---

基本事項01 高齢者の生きがいがづくりの推進

指標	地域活動に参加したことがある高齢者の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【長寿福祉課】	%	46.0	-	43.3	→
評価	<p>(状況) アンケートで地域活動(町内会、行政区の行事や活動)にどの程度参加しているかとの問いに「積極的に参加」、「なるべく参加」していると回答した高齢者の割合は43.3%で、前回の調査と比べ2.7ポイント減少しています。年代別では、65歳～69歳は41.9%、70歳～74歳は40.9%、75歳以上は49.1%となっています。</p> <p>(原因) 65歳～74歳の比較的若い高齢者は「趣味・娯楽活動」など個人的な活動を好む傾向があり、75歳以上の高齢者にとっては地域活動への参加意欲が高いためと考えられます。</p>						(横ばい) 目標達成度 ---

基本事項02 介護保険制度の適正な運営と介護予防の推進

指標	介護保険認定処理平均日数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【長寿福祉課】	日	38.5	39.5	39.0	→
評価	<p>(状況) 介護保険認定処理平均日数は39.0日、前年度より0.5日短く、平成24年度基準値の38.0日より1.0日増加していますが、県内平均(43.1日)と比べれば、認定処理日数は短い自治体となっています。</p> <p>(原因) 新規、更新区分変更申請については、処理日数がすべて短くなっています。また、調査実施日及び主治医意見書入手までの日数については、前年度とほぼ変わらないものの、基準値年度からはそれぞれの日数が長くなっているのが原因と考えられます。</p>						(横ばい) 目標達成度 ---

基本事項02 介護保険制度の適正な運営と介護予防の推進

指標	介護保険事業計画に基づく利用実績率	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【長寿福祉課】	%	93.1	99.5	96.9	
評価	<p>(状況) 介護保険事業計画に基づく利用実績率は96.9%で、前年度と比べ2.6ポイント減少しましたが、概ね事業計画の見込額どおりに推移しています。</p> <p>(原因) 介護保険事業計画は3年ごとに見直しています。前年度は第6期計画の初年度のため、見込額との差がより少なかったですが、平成28年度は計画の2年目のため、見込み額との差がより大きくなっています。</p>						(横ばい) 目標達成度 ---

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 高齢者の生きがいづくりの推進

基本事項 02 介護保険制度の適正な運営と介護予防の推進

基本事項 03 地域包括ケア体制の推進

基本事項02 介護保険制度の適正な運営と介護予防の推進

指標	介護サービスに関する適正化件数（介護サービストラブル件数）	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【長寿福祉課】	件	2	2	2	→
評価	<p>(状況) 介護サービスに関する適正化件数は2件で、前年度と同数です。介護サービスについては概ね適正に実施されています。</p> <p>(原因) 県及び市において、介護施設等の実地指導を実施している成果が出ています。なお、平成28年度は介護サービスに対する事業への苦情や施設における利用者への対応に対する苦情が2件あったため、横ばいの結果となっています。</p>	(件)					☁ (横ばい)
							目 標 達 成 度 ---

基本事項03 地域包括ケア体制の推進

指標	重度な要介護状態となっても在宅で生活することができる高齢者数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【長寿福祉課】	人	486	511	538	→
評価	<p>(状況) 重度な要介護状態になっても在宅で生活することができる高齢者数は538人で、前年度と比べ27人増加しています。</p> <p>(原因) 前年度と比べ、要介護4及び5の高齢者は6人減少し、施設サービス利用者も9人減少していますが、これは高齢者が身近な地域での生活が継続できるようにするための地域密着型サービスの伸びがより大きくなっているためです。なお、この在宅で生活することができる高齢者数には要介護4及び5の高齢者で施設入所待機者も含まれています。</p>	(人)					☀ (向上)
							目 標 達 成 度 ---

基本事項03 地域包括ケア体制の推進

指標	介護予防・日常生活支援総合事業の年間利用者数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【長寿福祉課】	人	579	562	522	
評価	<p>(状況) 介護予防・日常生活支援総合事業の年間利用者数は522人で、前年度と比べ40人減少していますが、平成24年度基準値の468人からは54人増加しています。</p> <p>(原因) 前年度実績と比べ生きがいデイ、家事援助の利用者数については概ね横ばいですが、配食サービス、運動器機能向上事業の利用者数は減少しています。本事業は、アンケート等により要介護等になるおそれのある方に運動教室の案内を行っており、基準値からの増加は、高齢者及び要介護等になる可能性のある方の増加とともに、介護予防意識の高まりが表れています。</p>	(人)					☀ (向上)
							目 標 達 成 度 ---

基本事項03 地域包括ケア体制の推進

指標	多職種参加によるケア会議によりケア方針が決定した件数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【長寿福祉課】	件	6	14	21	
評価	<p>(状況) 多職種参加によるケア会議によりケア方針が決定した件数は21件で、前年度と比べ7件増加しています。地域ケア会議は、個別ケースの支援内容の検討や地域の実情に応じて必要と認められる事項などについて協議するものです。今回方針が決定した内容としては、高齢者支援の課題、認知症の方の個別ケース、地域での介護予防教室の開催などが取り上げられています。</p> <p>(原因) 高齢者の増加とともに、地域課題や個別ケースが年々増加していることが原因と思われます。</p>	(件)					☀ (向上)
							目 標 達 成 度 ---

政策 22 市民福祉の向上

施策 03 障がい者福祉の充実

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
障がい者（児）及びその家族	障がい者（児）とその家族が、自らが望む地域で、自立した生活ができています。

施策の成果状況と評価

指標	在宅生活をしている障がい者（児）の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【社会福祉課】	%	98.3	98.1	97.5	
評価	(状況)在宅生活をしている障がい者（児）の割合は97.5%で、前年度と比べ、ほぼ横ばいとなっています。 (原因)平成28年度末現在の障がい手帳保持者は3,964人です。そのうち施設入所者数は98人で、在宅者数は3,866人です。施設入所者の約7割が重度障がい者のため、一度入所してしまうと退所することが困難となります。また、核家族化が進み、家族などの介護を受けながら自宅で暮らしている障がい者が増えていかなないことなども要因と考えられます。						目 標 達 成 度

指標	何らかの形で就労している障がい者の割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【社会福祉課】	%	9.4	12.6	11.6	➔
評価	(状況)何らかの形で就労している障がい者の割合は11.6%で、前年度と比べ、ほぼ横ばいとなっています。 (原因)須賀川管内での障がい者雇用は264.5人で、前年度と比べて31人減少し、就労施設がある障がい福祉サービス事業所利用者数は7人減少となりました。身体障がい者の離職率は低いものの、知的、精神障がい者の離職が増加したことが要因と考えられます。						目 標 達 成 度

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 「支え合う」理念の普及

基本事項 02 障がい者を支援する社会資源の充実

基本事項 03 障がい者の社会参加の促進

基本事項01 「支え合う」理念の普及

指標	障がい者とともに暮らし支え合う行動ができる市民割合	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【社会福祉課】	%	78.3	-	75.5	→
評価	(状況) 障がい者とともに暮らし支えあう行動ができる市民割合は75.5%で、前年の実績値と比べほぼ横ばいとなっています。アンケートの結果、一定水準が構成されています。男女別を比べると、男性74.4%、女性75.3%です。年齢別では、60代前半は66.9%で最も低く、75歳以上では87.0%となっており、年齢別のばらつきがあります。また、地区別でもばらつきがあり、最も高い地区は須賀川地区で79.2%、最も低い小塩江地区で65.6%となっています。						目標達成度
	(原因) 障がい者施設がある地域では、障がい者と接する機会が多いことなどが原因と思われる。	---					

基本事項01 「支え合う」理念の普及

指標	障がい者又はその家族の相談件数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【社会福祉課】	件	6,989	6,956	7,038	
評価	(状況) 障がい者又はその家族の相談件数は7,038件で、前年度と比べほぼ横ばいとなっています。						目標達成度
	(原因) 相談支援方法は、訪問、電話、来所、同行、メール、個別会議、関係機関会議の8種類があり、全体で7,038件でした。個別会議2,363件、電話2,260件と全体の半数以上を占めています。また、相談支援の内容は、障がい者が地域で自立して暮らしていくための具体的な方法です。相談支援事業所による障がい者に寄り添った相談支援業務を実施しています。	---					

基本事項02 障がい者を支援する社会資源の充実

指標	福祉施設(主に通所施設)を退所して、一般就労した障がい者の数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【社会福祉課】	人	2	2	1	→
評価	(状況) 福祉施設を退所して一般就労した障がい者の数は1人で、前年度と比べ1人減です。						目標達成度
	(原因) 市と須賀川地域自立支援協議会就労支援部会では就労に対する取組を行っており、その中でも就労体験等を行ったことが成果に結び付いていると考えられます。また、一般就労した1人は、身体障がい者であり、市内のガソリンスタンドに就職しました。	---					

基本事項02 障がい者を支援する社会資源の充実

指標	障がい福祉サービスの利用者数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【社会福祉課】	人	538	594	652	
評価	(状況) 障がい福祉サービスの利用者数は652人で、前年度と比べ58人増加しています。						目標達成度
	(原因) 市では「障がい福祉サービスのごあんない」を改訂しました。障がい福祉サービスについてのPR等をした結果が向上につながっていると考えられます。また、相談支援員によるサービス等利用計画の作成は、障がい者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援した結果であると考えます。	---					

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 「支え合う」理念の普及

基本事項 02 障がい者を支援する社会資源の充実

基本事項 03 障がい者の社会参加の促進

基本事項03 障がい者の社会参加の促進

指標	地域生活支援事業の利用者数（各事業の合算）	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【社会福祉課】	人	430	403	437	
評価	(状況) 地域生活支援事業の利用者数は437人で、前年度と比べ34人増となっています。 (原因) 放課後等デイサービス事業所が前年度から3事業所増加したことが要因と考えられます。	(人) 					 (横ばい)
		目標達成度 ---					

基本事項03 障がい者の社会参加の促進

指標	企業の障がい者雇用者数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【社会福祉課】	人	230.0	295.5	264.5	→
評価	(状況) 企業の障がい者雇用者数は264.5人で、前年度と比べ31.0人減少しています。 (原因) 前年度から知的・精神障がい者の離職者が増加したことが要因と考えられます。	(人) 					 (向上)
		目標達成度 ---					

政策 22 市民福祉の向上

施策 04 低所得者福祉の向上

施策のプロフィール

施策の対象	施策の意図
市民	対象者の最低生活が保障されるとともに、社会的、経済的に自立できます。また、生活保護に至る前に活用可能な社会資源を用いて困窮状態から自立できます。

施策の成果状況と評価

指標	保護率	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【社会福祉課】	%	8.2	8.2	8.4	→
評価	(状況) 保護率(年度平均)は8.4%で、前年度と比べ0.2ポイント増加しています。なお、福島県の保護率は8.6%(平成28年度平均)、全国の保護率は17.0%(平成26年度平均)となっています。 (原因) 高齢者世帯の保護率が、0.3ポイント増加したためと考えられます。						目標達成度

指標	就労による保護廃止世帯数(総合計画開始時からの累計)	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標のうごき
		【社会福祉課】	世帯	18	25	33	→
評価	(状況) 就労による保護廃止世帯数は、平成28年度は8世帯となり、累計は33世帯となりました。60代2人、50代3人、40代3人が就労して自立に至りました。 (原因) ケースワーカーと就労支援員、ハローワークが連携して就労支援を実施した結果と考えられます。						目標達成度

指標の動きのお天気マークは、総合計画時点の基準値との変化・状況を示しています。

指標の実績値の推移を示すグラフについては、目標値を設定する際に基準とした平成24年度からの数値を表記しておりますが、総合計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までです。

基本事項の成果状況と評価

基本事項 01 生活困窮者に対する支援策の適正な運用

基本事項 02 失業者に対する就労支援の充実と就労意欲の喚起

基本事項01 生活困窮者に対する支援策の適正な運用

指標	保護世帯数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【社会福祉課】	世帯	489	497	507	➔
評価	(状況) 保護世帯数(年度平均)は507世帯で、前年度と比べ10世帯増加しています。 (原因) 高齢者以外の世帯が減少したなか、全国と同様の傾向ですが、高齢者世帯が251世帯から264世帯へと13世帯増加したためと考えられます。					目標 達成度	---

基本事項01 生活困窮者に対する支援策の適正な運用

指標	生活困窮者自立支援制度を利用している市民数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【社会福祉課】	人		31	41	➔
評価	(状況) 市生活相談支援窓口での利用人数は41人で、前年度と比べ10人増加しています。 (原因) 市広報での周知に加え、地域包括支援センター等の関係機関、民生委員、病院、不動産事業者等へ制度を説明し、生活困窮者自立支援事業の周知を図ったためと考えられます。					目標 達成度	---

基本事項02 失業者に対する就労支援の充実と就労意欲の喚起

指標	生活保護及び生活困窮者自立支援事業による就職者数	単位	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	指標の うごき
		【社会福祉課】	人	13	26	31	➔
評価	(状況) 生活保護及び生活困窮者自立支援事業による就職者数は31人です。内訳は、生活保護受給者の就職者が12人、前年度から実施している生活困窮者自立支援事業利用者の就職者が19人となっています。 (原因) 生活保護受給者、生活困窮者自立支援事業利用者、それぞれ専任の就労支援員がサポートした結果と考えられます。今後も一定の成果が見込まれます。					目標 達成度	---